

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 市川町

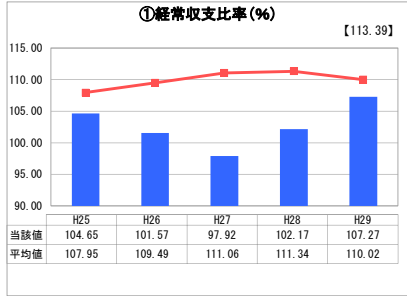
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	65.46	99.79	2,580	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,463	82.67	150.76
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
12,359	143.05	86.40

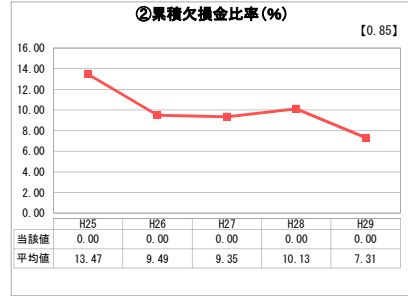
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

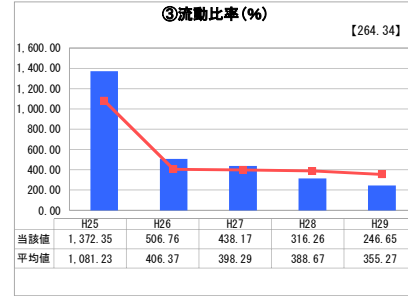
1. 経営の健全性・効率性



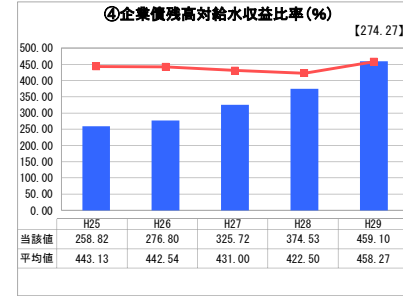
「経常損益」



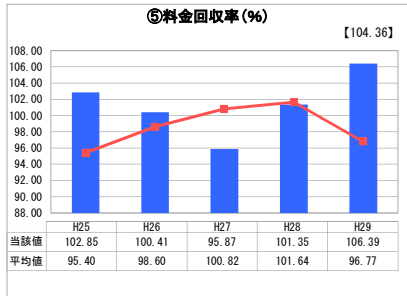
「累積欠損」



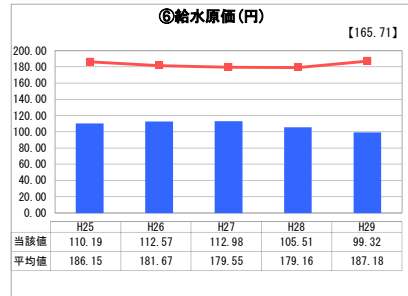
「支払能力」



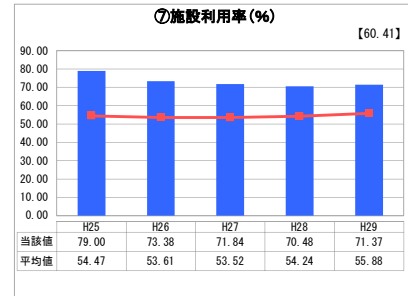
「債務残高」



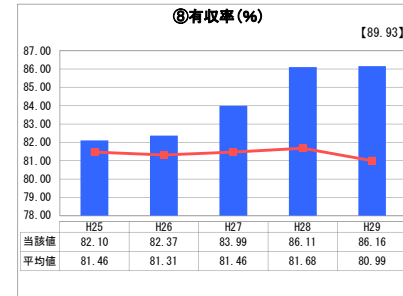
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

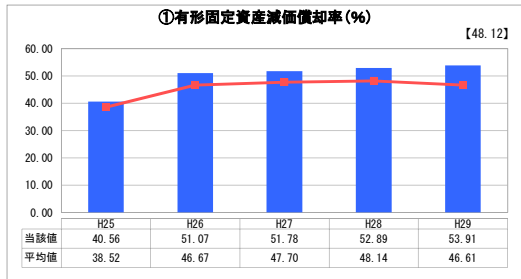


「施設の効率性」

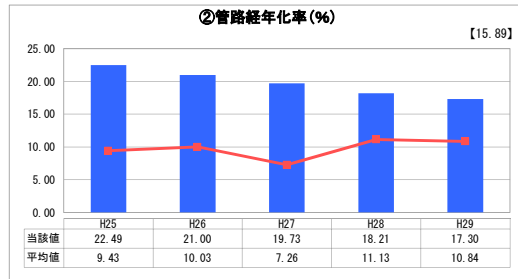


「供給した配水量の効率性」

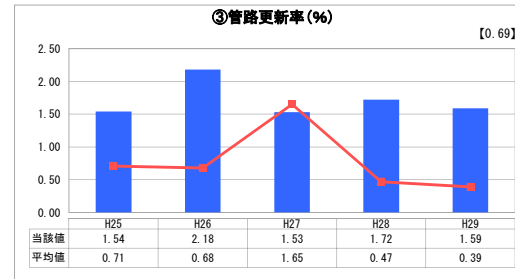
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率…平成27年度より徐々に良くなってきているが平均値を下回っているため、何らかの経営改善に向けた取り組みが必要である。② 累積欠損比率…平成29年度までは発生していない。③ 流動比率…平成26年度から新会計標準適用となり負債額が増となったため、比率が減となった。④ 企業債残高対給水収益比率…類似団体とはほぼ数値は同じであるが、企業債残高に対して給水収益の占める割合が低いことから、料金水準が適正であるか検討しなければならない。⑤ 28年度より上がっており、このまま維持できるよう努力しなければならない。⑥ 給水原価…平均値を下回っておりこれまで経費節減に努めてきた結果、効率的な運営をしてきたことがわかるが、今後企業債を活用しながら更新を行いながら更なる経営改善が必要である。⑦ 施設利用率…平均値を上回っており、施設の利用状況や規模は適正である。⑧ 有収率…用水は有収率が100%であるが、町内の上水は老朽管が多く、有収率が72.5%と低いため漏水等の対策をする必要がある。

2. 老朽化の状況について

施設利用率は平均値、類似団体よりも高いので施設の利用状況や規模は適正であるが、法定対応年数を過ぎた管路が類似団体と比較しても高い割合を占めている。類似団体以上に管路更新を行ってはいないが、計画的に早急に更新を行っていく必要がある。また、管路経年率と企業債残高対給水収益率より管路更新が必要ではあるが料金改定を先送りしていることが推測される。

全体総括

平成29年度は平成28年度と比較して経費節減に努めた結果、経営状態は多少は良くなったが、水道管は老朽管がかなり残っており、漏水対策もあり管路更新を計画的に早急に企業債等を活用しながら行っていかなければならない。併せて料金改定も行き、経営していく必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。